

中学歴史プリント（過去問類似）

古墳時代

名前

得点

/10

問1 4世紀から7世紀頃にかけて朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住した人々は、それまでの土器とは異なる、黒っぽくて硬い「須恵器」の製作技術や、文字としての「漢字」などを伝えました。このような人々を何と呼びますか。 (2026年 山形公立入試 類似)

1. 渡来人 2. 縄文人 3. 弥生人 4. 防人

問2 航空写真などの上空からの視点で見ると、前方部が方形（四角形）、後方部が円形をしており、全体として巨大な鍵穴のような形状をしている日本独自の古墳の名称として適切なものはどれか。 (2020年 佐賀公立入試 類似)

1. 前方後円墳 2. 円墳 3. 方墳 4. 八角墳

問3 朝鮮半島における高句麗、百濟、新羅の三国抗争期において、日本（倭）の動向や影響について説明した文として最も適切なものを次から選びなさい。 (2024年 滋賀公立入試 類似)

1. 朝鮮半島からの渡来人が、須恵器の製作技術や漢字、儒教などを日本に伝えた
2. 秦の始皇帝が派遣した軍隊と協力し、高句麗の南下を阻止した
3. ナポレオンの軍勢による混乱に乗じて、朝鮮半島全域を直接支配した
4. オランダとの貿易を優先するため、朝鮮半島諸国との国交をすべて断絶した

問4 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。

(2024年 鳥取公立入試 類似)

1. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。
2. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
3. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。
4. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。

問5 6世紀の古墳時代に、朝鮮半島の百濟から日本へ仏教が公式に伝えられた際、経典や仏像とともに日本へ同時にもたらされたものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 群馬公立入試 類似)

1. 寺院建築や彫刻などの高度な技術
2. 稲作の技術とそれに伴う青銅器の製造法
3. 銅鐸を用いた祭祀の習慣や青銅器文化
4. 磨製石器の製作技術と大規模な環濠集落

問6 5世紀のヤマト王権の有力者たちは、当時の中国において、政治的な正当性や朝鮮半島での軍事的な立場を認めてもらうために使者を派遣しました。このとき、ヤマト王権が朝貢を行った中国の王朝の総称として正しいものを選択してください。 (2024年 三重公立入試 類似)

1. 南朝 2. 北朝 3. 隋 4. 唐

問7 中国の歴史書である『宋書』倭国伝には、5世紀に倭の五王が中国へ使者を送ったことが記されています。この「五王」が朝貢（皇帝への貢ぎ物）を行った相手である、当時の中国の勢力を何と呼びますか。 (2024年 大阪公立入試 類似)

1. 南朝 2. 北朝 3. 隋 4. 唐

問8 大阪府の百舌鳥・古市古墳群に含まれる、三重の濠が巡らされた日本最大の前方後円墳の名称と、それが登録されているユネスコの区分の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。 (2020年 群馬県公立入試 類似)

1. 大仙古墳（世界文化遺産） 2. 大仙古墳（世界自然遺産） 3. 五色塚古墳（世界文化遺産） 4. 箸墓古墳（世界文化遺産）

問9 5世紀の古墳から出土する、甲冑（よろい・かぶと）を身にまとい、背中に矢を背負った武人の姿を模した土製品について、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 群馬公立入試 類似)

1. 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている
2. 弥生土器と呼ばれ、大陸から伝わった金属器の使用法を儀礼的に示している
3. 唐から伝来した仏教儀礼に基づき、寺院の門に配置される守護神を表している
4. 七支刀と呼ばれ、百濟の王から贈られた最新の鉄製武器の威力を示している

問10 5世紀ごろに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、このような大規模な墳墓が築かれた歴史的な背景として最も適切な説明はどれか。 (2020年 三重公立入試 類似)

1. 仏教の伝来とともに、死者を弔うために巨大な寺院を建てる習慣が広まったため。
2. ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。
3. 大陸から伝わった稲作の技術を普及させるために、神を祀る祭祀場を各地に作ったため。
4. 各地域の小国が、他国からの侵略を防ぐための軍事的な要塞として築いたため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 渡来人	4世紀から7世紀にかけて、大陸の戦乱を避けるなどの理由で日本列島に移り住んだ人々は、当時の日本にはなかった高度な技術や文化を伝えました。彼らが伝えた須恵器は、高温で焼くことができる穴窯（あながま）の技術を用いたもので、それまでの赤褐色の土器よりも硬い性質を持っていました。また、漢字の伝来は、その後の大和政権による記録や行政の仕組みを支える基盤となりました。
問2	答え 1 前方後円墳	3世紀後半から6世紀にかけて、ヤマト政権の勢力下にあった地域で築かれた日本独自の形式です。大阪府の大仙古墳（伝仁徳天皇陵）に代表されるように、大規模なものは当時の有力者の権力を象徴しています。
問3	答え 1 朝鮮半島からの渡来人が、須恵器の製作技術や漢字、儒教などを日本に伝えた	朝鮮半島の緊張状態を背景に、多くの人々が技術や文化を携えて日本列島へ渡ってきました。彼らは「渡来人」と呼ばれ、土木技術、機織り、金属器の加工、さらには漢字や儒教といった高度な文化を伝え、ヤマト政権の発展に大きく貢献しました。
問4	答え 1 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問5	答え 1 寺院建築や彫刻などの高度な技術	百済から仏教が伝来した際、単に宗教的な教え（経典）や崇拜対象（仏像）が届いただけでなく、それらを安置するための寺院を建てる建築技術や、仏像を造るための彫刻技術といった、当時の大陸や朝鮮半島の高度な技術がセットで導入されました。これにより、その後の日本の文化や技術は大きく発展することになりました。
問6	答え 1 南朝	5世紀の中国は、華北を支配する北朝と、江南を支配する南朝に分かれて対立していました。地理的に南に位置する王朝と交流しやすかったヤマト王権は、南朝の諸王朝へ「倭の五王」と呼ばれる王たちが相次いで使者を送り、朝貢を行いました。
問7	答え 1 南朝	当時の中国は、南北に王朝が分かれて対立する「南北朝時代」にありました。倭の五王（讃・珍・済・興・武）は、そのうち南側の「宋」などの王朝、すなわち南朝に使者を送りました。北朝は主に華北を支配していた別の勢力であり、隋や唐はのちに中国を統一した、より新しい時代の王朝です。
問8	答え 1 大仙古墳（世界文化遺産）	5世紀の古墳時代中期に築造された大仙古墳は、全長約486メートルを誇る日本最大の古墳です。その圧倒的な規模と独特な形状は、当時のヤマト政権の強力な支配力を示すものと考えられています。2019年には、周辺古墳とともに「百舌鳥・古市古墳群」としてユネスコの世界文化遺産に登録されました。
問9	答え 1 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている	古墳時代中期にあたる5世紀には、高句麗の南下による朝鮮半島の緊張状態が倭（日本）にも波及していました。古墳に副葬された武人などの人物埴輪は、当時の武具の構造を正確に伝えており、埋葬された豪族の軍事的な権威を誇示したり、死者の霊を守ったりする目的があったと考えられています。
問10	答え 2 ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。	大仙古墳のような巨大な前方後円墳の建設には、延べ数百万人とも言われる膨大な労働力と長い年月が必要でした。これほど大規模な墓を築くことができた事実は、被葬者である大王が近畿地方を中心として、広範囲にわたる民衆や地方の豪族を統制し、支配下に置いていたことを証明しています。